

さざなみ

国語教室

さざなみ国語教室
 第479号 2022年2月25日
 発行者代表 吉永幸司
 連絡先 大津市柳川2-11-5
 TEL 077-522-1008
 発行所 滋賀児童文化協会
 NPO 現代の教育問題研究所

気持ちと言語化する

山口 祥輝

『堅い袴角取れて
 マンテルズボンに人力車
 いきな束髪ボンネット
 貴女や紳士の扮装で
 うわべの飾りは立派だが
 政治の思想が欠乏だ
 天地の真理がわからない
 心に自由のたねをまけ
 オッペケペー オッペケペー
 オッペケペー オッペケペー
 オッペケペー オッペケペー』
 吉永幸司先生からご連絡をいた
 だいた時、川上音二郎の「オッペ
 ケペー節」をふと思いつきました。
 というのも、私が京都女子大学附
 属小学校の在校生であった時に、
 吉永先生が校長に就任。
 「国語力は人間力」を合い言葉に
 様々な取り組みが始まり、その中
 でも毎週全校児童の前で、詩や俳

句などをクラスのみんなで音読す
 る「音読集会」が私は大好きでし
 た。その「音読集会」で、一番の
 【推し】となったのが前述したオ
 ッペケペー節で、意味はわからな
 くても音が面白い、韻を踏むって
 こういうことなのかなと言葉、日
 本語の面白さに気づかされまし
 た。このように「言葉」を浴び続
 けた附小を卒業してから10数年
 がたち、現在は新米記者として「言
 葉」を生業とする仕事をしていま
 す。

SNSの普及などで、私が執筆
 した記事や、現場で伝えたりポー
 トなどは、様々な時間に様々な世
 代が様々な媒体で見ることが可能
 となつています。さらに、それを
 みて様々な人が様々な感想を言え

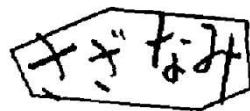
る環境ができています。私は、こ
 のような環境に私の国語力で挑む
 日々を送っています。記者という
 のは、ある事象について感じ取っ
 たもの、取材したものを言語化す
 るという、記者自身の人間力も問
 われる仕事です。

この仕事に携わることになって
 から、小学生のころにはまだあま
 り理解ができていなかった「国語
 力は人間力」という言葉の意味が
 わかってきたように思います。私
 が幼い頃、和菓子職人の祖父と街
 を歩いていると、
 「段々、公孫樹にも色がついてき
 たな。」
 というように祖父はいつもきまっ
 て景色のことを独り言のようにつ
 ぶやいて歩いていました。街を歩
 く人の服装など気づいたことを言
 語化して自分の中で形にするとい
 うことを祖父はしていたように思
 います。

和菓子はその季節ごとに作るも
 のが変わります。たとえば桜餅。
 春といえばこのお菓子ですが、祖
 父は桜の開花状況をみて毎日色な
 どに変化を加えて表現していまし
 た。言語化した季節をお菓子で表
 現していたのです。

祖父のように様々な機微を読み
 取り、表現する記者でありたいと
 思います。

(フジテレビ社会部記者)



▼テープレコーダを
 活用して授業の文字
 起こしをしました。
 授業を発言を文字化
 するのですがかなり
 の手間と時間をかけ
 ましたが、自分の話
 し方を含めて子ども
 との対応を振り返る

という効果がありました。その後、
 ビデオカメラで授業記録ができる
 ようになり、テープ起こしをする
 ことはなくなりました▼コロナ感
 染予防のため研究会もリモートワ
 ークが多くなりました。事前に授
 業が配信され、それをもとに協議
 をするという方法です。カメラが
 教室の前後に固定をしている場合
 は、授業の全体像が理解できます。
 ハンドカメラで発言する子や話し
 合いの様子を写している場合は、
 授業に教師や子どもの表情を理解
 することができず、カメラのア
 ップとルーズの長短がいろいろに
 あります。▼実際の授業参観でな
 く、映像では迫力が伝わってこな
 いので、書き起こしをしました。
 小さくて聞こえない声は、何度も
 聞き直しているうちに授業の流れ
 や雰囲気、さらには、どきどきし
 ながら発言している子の気持ちま
 で伝わってくるような気持ちでし
 た。何度も聞き直しているのです。
 時間をかなり必要としました。が、
 書き起こしの大事さを再認識しま
 した▼書くことがなければ見過ご
 していたであろう発言などに気が
 付いて時の楽しさが記憶に残る書
 き起こしでした。

(吉永幸司)

聖火トーチ 弓削 裕之

北京オリンピックピックが開催されている。子どもたちの日記でも、テレビで観戦したことについて話題にされていることが多い。

そんな中、学校に東京オリンピック2020の聖火リレーで使用されたトーチが届いた。さっそく正面玄関に飾られ、登校してきた子どもたちの注目の的になった。「ぜひ持たせてあげてください」と教頭先生に勧めていただき、一年生が一人ひとり持たせてもらえ、感想を書き、時間と合わせて一時間の授業にした。数人ずつ正面玄関に呼び、子どもたちにトーチを渡して記念写真を撮った。教室で待っている子どもたちのワクワクが伝わってきたので、「待っている間の気持ちも書いていいですよ」と話した。「いいんですか」という反応。思っていた以上に鉛筆が進んでいて、順番が来ても「もう少し書きたいので後でもいいですか」と言う子どももいた。

わたしは、トーチをさわるまえ、ドキドキしています。わたしは、トーチはどういうものか、そうぞうしました。「あついのかな、つめたいのかな、かたいのかな、やわらかいのかな、いろはなにいろかな、おもいのかな、かるいのかな。」と、いろいろそうぞうしました。

さわるまえはドキドキしていて、こわしたらどうしよう...とおもっていたけど、さわったときはとてもかるかったの、オリンピックピックにようかな...とおもいました。

ぼくは、きょう、一生に一度あるかないかというくらいとくべつなものをさわらせてもらいました。それは、なんとせいりランナーがもちながらはしるトーチです。先生もさわったことがなかったの、さわれるときいてすごくうれしくてとびあがりそうになりました。ついにさわれるばんがきて、とても、きんちようして、かおがまっかになりそうでした。

はじめ、とつてもどきどきしました。つめたいかなとおもったけれど、とてもあたたかくかんじました。わたしは、オリンピックのおおくの人がトーチをもっているんだなとおもいました。

ドキドキするな。トーチをさわれるなんてすごいよ。だつてきょうしかさわれないトーチがきたんだもん。この学校にこれによかつたな。ずっとこの学校にいたいな。

体験の直前直後に作文を書く、子どもたちの言葉に臨場感があつた。その後、校長先生が全校朝礼で一年生の作文を紹介してくださり、聖火トーチは惜しまれながら帰っていった。

(京都女子大学附属小学校)

滋賀県理科研究大会 「考えること」を「楽しむ児童」を目指して 蜂屋 正雄

県の理科部会研究大会を行った。校内研究も理科で「思考力・判断力・表現力」に焦点を当てて研究を行ってきた。思考を楽しむためには、
・自分の意見を持ち書く力
・交流する力
・交流して得られた考えを統合して、より妥当性のある考えを生み出す力
が必要であると考えた。

これだけの力を理科の学習だけで培うことは難しい。国語科をはじめとして、すべての教科での積み上げが必要となつてくると考え、特に国語科では

- ・ 出来事を正確に書く
- ・ 自分の考えと根拠を書く
- ・ 話し合う
- ・ 自分の学習を振り返る

という過程を繰り返してきた。個人で考え、伝え合い、全体で共有し、振り返る過程の積み重ねが大切であると考えたからである。さらに、個人で考えることが難しい児童にとつて、交流することで自分の思いに近い意見と出会い、参照することで、自分の考えを言葉にする経験を重ねることができたと考える。

理科の学習とは、人との交流を通じて、ものと交流する学習でもある。「読み解く力」の過程を経

ながら、未知なるものに力を合わせて立ち向かつていくイメージである。四年生の理科学習では、児童に事象の法則性に「仮説」を持たせたり、実験結果に「予想」を持たせたりしながら、そう考えた理由をこれまでの経験から記述させる。

「空気は押し縮められないと思いません。理由は、ごみ袋の空気は抱きしめると隙間の方に逃げてパンパンになるからです。」
「水は温度が上がっても体積は大きくならないと思います。理由は空気は押し縮められたが、水は押し縮められなかったから、今回も水は変化しないと思います。」

以上のような予想は、実験前の半数以上の児童の予想であった。科学の知識としては間違いであるが、理科実験の「予想」としては満点である。

このように、理科の学習では目の前で自分の予想と違う結果を発見するほど、児童は勝手に思考を進め、言葉の力をつけていく。

また、国語科学習での登場人物の気持ちや著者の思いを考えることに比べると、「大きくなる」「小さくなる」「変化しない」などの三択で考えを表現できる点や具体的にモノがある点は、文章で表現することが苦手な児童にとつては、国語科よりも言語活動を行いやすいとも考えている。

これからも、理科の視点を生かした言語活動を通じて、言葉の力を伸ばしていきたい。

(野洲市立北野小学校)

ICTの効果的な活用
箕浦 健司

「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」

今年度から一人一台のタブレット端末が配付された。本校は算数科を窓口授業研究を進めており、授業内容でのICTの有効活用は研究内容の一つである。もちろん算数科だけでなく、他の教科等の学習でも日々実践を積み重ねている。今回は、本校六年生の実践を紹介する。

本単元は、まず高畑勲氏の『鳥獣戯画』を読む。表現の工夫を学習した後、それをいかして、自分の選んだ日本文化を発信するパンフレット作りを取り組むという内容である。

本単元の指導事項は、
・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思B(1)イ)
・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えを伝えるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)エ)

『鳥獣戯画を読む』では、筆者が「絵」のどこに注目しているか、また、筆者が「絵」の何を評価しているかについて着目し、その文章表現について学んだ。「日本文化を発信しよう」では、タブレットを用い、自身の発信したい日本文化を決めた後、スライドショー形式でまとめることとした。

まずは、内容と構成について話し合いでは、
「読者に、その文化を知っているか呼びかけの文を入れたらいいと思います。」
「その文化の良さを評価する文章を工夫して、パンフレットの中心

に載せればいいと思います。」
などの意見が出た。また、本単元では、本やインターネットで調べ集めた情報の取り扱いも大切な学習事項である。引用する際にはかぎを付けたり、本文よりも少し下げたりすることを確認。また、出典を明示することについても確認した。結局、スライドは五枚で、一枚目はタイトルと図や写真、読者への呼びかけ。二枚目は、その文化の歴史。三、四枚目が中心で、その文化への評価。五枚目は、引用した文献やウェブサイトの名称とアドレスを掲載する、ということとに決まった。そして、各々がタブレットでのスライドショーによるパンフレット作りに取り組んだ。

今回、データでの作成・交流としたことで、以下のことをスムーズに行うことができた。

・インターネットによる調べ学習
・画像や図表などの貼り付け、レイアウト
・タイトルや強調したい文字のサイズや字体の変更
・発表や相互の交流

特に交流については、各自の端末で学級全員の作品を短時間で読み、今回は完成したものを読み合っている。交流したが、作成途中で交流し、アドバイスをし合うことも短時間で十分に行え、アドバイスを踏まえた修正も容易である。今回、ICT活用が指導事項の習熟に大変有効であることを確認することができた。

最後に、生け花を紹介した児童の一枚目のスライド。
生け花で生活を華やかに
と玄関など、さまざまな人が来る
ところだ、自分の個性を飾ってみ
てはどうですか？
(長浜市立南郷里小学校)

困っていませんか？
お手伝いしましょうか？
西村 嘉人

家でゆっくり過ごすつもりでしたが、少人数指導担当の臨時講師として今年度も子どもたちと関わりを持たせてもらっている。

二年生の3クラスに週4日一時間ずつ算数の複数指導教員として勤務する、が年度当初の打ち合わせであった。

当初の目論見は一週間で変更となり、個別支援を必要とする児童を中心に2クラスの学習支援をすることにになった。

Kさん。二学期の途中までは、友だちに誘われて学習中でも教室外で自由に過ごすことが多かった。友だちの転校を契機に、少しずつ教室に留まる時間が増えてきた。自席で学習する時間も徐々に長くなってきた。

しかし、クラスの友だちはKさんがもっと落ち着いて学習することを期待して

「Kさん！すわり！」
「Kさん！うるさい！」
となかなかに厳しい。
「大丈夫！今日も勉強したもんね。」

と寄り添って励ましの言葉をかける。ようやく、こうした言葉が届くようになってきた。
Hさん。とにかく学習に気持ち向かない。傍らで
「ノートを出して！」

「めあてを書いて！」
と声かけをしても動かない。
「ノートを出しましょうか。」
「めあてを書くお手伝いをしましょうか。」

と話しかけると、
「自分で出します。」
「書いてください。」
などの返事が返ってくる。途中まで支援を進めると、

「あつ。後はできる！」
と自分で学習活動を引き取って進めることができる。しかし、常に支援が効くとは限らない。機嫌を損ねることも多々ある。

Tさん。アウトドア派で、昆虫大好き、魚大好き。あまり教室に居着かない。教室に戻ってきたときには、短い時間で課題をこなす。

とにかく文字を書くのが大嫌い。問題を書き写すなどの支援をする。話を聞いていなかったはずなのにすらすらと課題解決を進める。最近では寒いので外で過ごす時間は短くなったが、相変わらず自席で学習する時間は短い。

様々な子どもたちと関わりながら、ふと自分が現役だった頃の学級経営や子ども支援が気にかかると、「学級全体」ばかりに目が向き、困っている一人ひとりに目が向いていなかったのではないだろうか。そんな思いが湧いてくる。

「困っていませんか？」
「お手伝いしましょうか？」
今年度、二年生の子どもたちと関わって学んだ二つの声かけである。
(彦根市立金城小学校)

NPO法人現代の教育問題研究所
第3回近江の子ども俳句教室
投句部門〈秋冬の俳句〉
好光幹雄

滋賀県知事賞
弟がグーでもみじに負けていた
滋賀県6年新井結翔

大津市長賞
カレンダー残り一枚冬近し
滋賀県6年小林静佳

草津市長賞
稲の穂や風歌うたび金メダル
京都府6年境 彩葉

滋賀県教育長賞
試合負けかすんで見えるもみじ
たち 滋賀県6年北川陽音

大津市教育長賞
祖母と行く土佐のおへんろ落ち
葉ふむ 滋賀県4年島村紗萌

草津市教育長賞
木の枝にしがみついている冬の
雨 兵庫県6年森田 一颯

草津俳句連盟会長賞
どんぐりのぼうしをとるとつる
つつる 滋賀県1年上田大輝

NHK大津放送局長賞
どんぐりをふくろいっばいひろ
ったひ 京都府幼稚園年中
玉本琉月奈

KBS京都放送賞
おつきさまちきゅうのかげにた
べられる 大阪府3年鶴田淳悟

BBCびわ湖放送賞
お母さんいっばいいたよ赤とん
ぼ 滋賀県2年大辻彩葉

えふえむ草津賞
恋人と手ぶくろなして手をつな
ぐ FMおおつ賞
大阪府6年堀上綾花

FCおおつ賞
ぐるぐるとへびのマフラ―あつ
たかい 埼玉県5年阿部結愛

朝日新聞大津総局長賞
じゆくおわり満月上からむかえ
くる 滋賀県4年永良優衣

読売新聞大津支局長賞
よくまわるどんぐりごまがつく
れたよ 兵庫県1年大瀧遥生

毎日新聞大津支局長賞
赤蜻蛉この指とまつてにらめつ
こ 兵庫県5年岡本楓海夏

産経新聞社賞
きのこがり図かん片手におおはし
やぎ 滋賀県4年川上大輝

京都新聞賞
朝昼晩働きすぎのかかし君
中日新聞社賞
京都府5年遠山史桜

すずなりだみかんのしゅうかく
まかせてよ 和歌山県4年
武内聖夏

NPO法人現代の教育問題研究
所賞7句
なんだろう誰かが叫ぶ冬の風

川下にひがんだ花の大通り
つるし柿今か今かとまっている
京都府4年齋藤雄太

おおかみはわるいやつではあり
ません 京都府3年北尾琴葉

道ばたで光っているよいちよう
の葉 大阪府5年林寛斗
長崎県5年北島ゆいり

きたまどのとをあけるとき手は
こおり 大阪府1年松元七奈
弟がせいちようしたな秋うらら
ら 滋賀県4年伊藤巨輝

【選評】弟さんは何才でしょう
か。おむつが取れたのでしよ
うか。一人で服が着られるよう
になったのでしょうか。一人で
留守番ができるようになったの
でしょうか。「せいちようした
な」の「な」に巨輝さんのお兄
さんとしての感慨深げな様子が
にじみ出ていますね。「秋うら
ら」の季語がぴったりと当ては
まる素敵な作品です。

《お知らせとお礼》
▼3541句の応募がありました
た。大賞・入選作品一覧をNPO
法人のHPに掲載。素晴らしい作
品の数々をご覧ください▼22年
1月、2月のFM草津「俳句5・
7・GOの時間」で25の大賞に
選評を添えて放送いたしました。

オンデマンド放送はPCで何時で
も聞けます。「えふえむ草津」の
HPをご覧ください▼次年度も全
国からの応募をお待ちしています
▼最後に、今回も滋賀県知事様は
じめ多くの皆様からご後援、ご協
力を賜りました。実行委員長とし
て厚く御礼申し上げます。深謝

きらきらと子等の夢咲く花菜晴
れ 幹雄
(京都・立命館小学校常勤講師)

編集後記

▼一月例会
(四七八回)
は「第3回近

江の子ども俳句教室」の入選者の
作品集の編集作業を中心に行いま
した。新型コロナ感染が続く中、
開催方法を投句募集に変更しての
二冊目です。

▼作者を前にして直接講評を伝え
る方がよいのですが、それができ
ないため、大賞の句それぞれには
同人が分担した講評を添えること
にしています。作品集を手にと
った時に、講評を合わせて読んで頂
くと有難く思っています。

▼同人が講評で特に大切にしたこ
とを出し合い交流しました。表
現された場面を想像するように
努めました。

・ 黙読するだけでなく何度も朗読
して味わい、その感想を作者に
届けるように工夫した。

・ 作者が選んだ言葉に込めた思い
を読み取り、十七音に組み合わ
せて表現しようとしたその効果
を、一人の読み手の感想として
伝えようとした。

・ などです。

▼作者や作品集を読む皆さんの書
き意欲をさらに高め、言葉での表
現体験の喜びを感じていただけ
る講評を目指しました。

・ 講評を書くことで、俳句の価値
を再発見することができたと感想
を語る同人の声に同感する声も多
く聞こえたのでした。

▼よりよい表現者が育つ俳句教室
にしたいと思えます。応募
下さった皆様、応援をしてくださ
った先生や保護者の皆様、ありが
とうございました。

・ 山口祥輝様の玉稿を
頂きまして。深謝。
(森邦博)